

## ふるさと見聞録

金協会を設立し、国の事業を補っており、六十年にはキャベツの栽培面積は二、五〇〇畝となった。根コブ防除対策として、薬剤防除（PCNB）と

発病を抑える総合防除として、①輪作（レタス、ウド、ハナインゲン等のアブラナ科以外の作物を作付ける。青首大根、根コブ病抵抗性白菜等を作付ける）②排水条件の改良③土壌改良（PH6にする）④赤土利用などを実施している。

### 長野県南佐久郡南牧村

耕地の標高は一、〇〇〇から一、四〇〇坪のところであり、その面積は約一、七〇〇畝で九〇坪以上が畑で、その七〇坪が露地野菜である。農家戸数は、五百二十戸で、專業百九十四戸、第一種兼業百八十九戸、第二種兼業百三十七戸であり、專業率三七割と婦恋村と同様にたいへん高い。また、経営規模別農家数は、

五畝以上が八十三戸、三〜五畝百三戸、二〜三畝が九十九戸等となっており、平均耕作面積は二・八畝であるが、野菜の作付面積は二毛作を含めて、約五畝となっている。農業粗生産額（平成二年）は九十八億二千二百万円であり、そのなかで野菜八十四億八千三百万円、酪農十一億九百万円、肉牛等二億六百万円等となっている。野菜は、葉物三品（白菜、レタス、キャベツ）が主体で作付面積一、一四〇畝である。また、酪農は乳用牛三千五十頭、肉用牛九百五十三頭、合計四千三頭が飼育されている。出荷組織は南牧村農協（約三百六十戸）と野辺山開拓農協（約百戸）の二つに別れ、それぞれより出荷されている。

今後私たちもそれぞれの農業経営の改善に向けて、さらに努力するとともに、地域農業振興に向けて、微力ではありますがお協力させていただきたいと考えます。今後とも行政および関係機関のご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 部落差別は、明治以後なぜ

### 残されてきたのでしよう⑧

#### 改善運動から融和運動へ②

吉本代次郎氏を中心に組織された改善会の有志たちは、各区の代表を仲間に入れたたびたび会合を持って話し合い、改善運動に積極的に取り組みました。

野中改善会の会則には、第二条に「本会ハ風紀ノ改善ヲ図リ部落ノ発展ヲ期スルヲ以テ目的トス」とあり、事業の概要には、風俗の改善、各種講習会講演会の開催、学齡児童保護会、納税組合、その他孝子精農者の表彰、農地改良実行組合の普及、貧民の救済、その他各般にわたる事業をあげています。

具体的には、子供たちの救済面では、学校と連携して、各区ごとに集団登校によって出席率を競わせ、上位に入れればノート等の賞品を与えたりして就学奨励に努めました。また、このころには、どの

この運動は、内部改善運動とよばれ、後の融和運動の基礎となりました。野中部落はこの運動では県下の最先端を進んでおり、その業績は新聞紙上でも、しばしば報道され模範部落として、たびたび表彰されました。この改善運動は次第に県下各地にも広がり、各地区にも青年団や処女会などの組織もつくられ、講習会、講習会等も活発に行われるようになりました。

さらに、女性に対しては、裁縫や礼儀を教え、よそへ行くときには帯をきちんと結んで見苦しくない服装にすることを申し合わせたり、その他いろいろと風俗の改善に努めました。

## 教育シリーズ

そして、若者に呼び掛けて青年団や処女会を結成させ、柔剣道の練習や礼法、裁縫等の講習会を開きました。そして役場と交渉し、トラホームをなくすため無料洗眼所を開設したり、寄付を集めて消防設備を整えるといったようなことも行いました。

内部改善運動は、部落の有機階級の人たちや篤志家が中心になった運動で、自分たちの生活を改善していけば、差別される理由がなくなり、自然に解決するとの考え方に立っています。つまり、部落差別の原因を部落の人々の心掛けにあるとする考え方で、差別や貧困を生み出している真の原因を追求し、それを解決していこうとする姿勢は欠落していました。

しかし、この改善運動が部落解放の啓蒙的役割を果たしてきたことは、単に同融和の運動であるにしても無視されるべきものではありません。